

議案 I SENID2013 年度事業報告

1. ヨード欠乏症の知識と栄養知識の教育事業

実施日：2013 年 10 月 20 日 13：45～16：30

場 所：ネパール カスキ郡ポカラ カンニャキャンパス さくら寮

実施者：熱田典子（管理栄養士／公益社団法人アジア協会アジア友の会職員）

趣 旨：認定 NPO 法人日本ネパール女性教育協会（JNFEA）が支援しているカンニャキャンパス（女子短大）さくら寮の卒業生を対象にしたフォローアップセミナー2013にて、教育プログラムとしてヨード欠乏症と栄養に関する講義を実施

目 的：セミナー参加者は卒業後出身の村に帰って女教師として活躍しており、ヨードの重要性と予防に関する知識を得てもらって、村の生活リーダーとして当 NPO のヨード補給活動の足掛かりにする。

受講人数：28 名

方 法：①パワーポイントによるプレゼンテーション

②栄養指導材料を通じての理解の実践

③アンケートによるヨード欠乏症に対する知識の確認

内 容：①栄養とは

②日本の学校給食に関して

③主な栄養の働き

食物を「赤色」「黄色」「緑色」の 3 グループに分けて説明

④実践

⑤ヨード欠乏症に関して

- ヨードとは 甲状腺の働き

- ヨードを含む食品に関して

- ヨード欠乏症のリスクについて

- ネパールでの予防法

同席：岩谷栄子さん（JNFEA 事務局長）

講師の感想：さくら寮の卒業生 参加予定者 30 名の内 2 名は季節外れの大雨などで交通事情が悪化し到着していなかったが、参加者全員一生懸命に学んでいる様子である。

しかしながら、まだ 18 歳の受講者も多く年齢の低さに驚いた。よく聞くとネパールの 10 年生を終え S L C を合格した後にこの学校に進学し教師になる学びを

する。一般的には現在プラス2と言われる学年で、日本であれば高校卒業同等レベルである。そのため、まだ栄養の事は多少頭でわかっているように感じましたが、あと、その重要性がまだ実感としてもないようで、子どもたちへの学習内容につなげていくにはもう少しその必要性を彼女たち自身がしっかりと感じてもらうことができれば違ってくるのでは、と思いました。

もし、日本ネパール女性教育協会の方で可能であれば、数回つづけることにより栄養に関して、またヨードに関してのしっかりした知識を促すことが出来るのではないかと感じます。ヨード添加塩のことを知っていても詳しい事はほとんど知らないようでした。是非とも教育者として彼女たちの口を通してヨードの大切さを多くの人に啓蒙してもらえれば、大きな力となると思います。

2. ポカラ・女子短大さくら寮 表敬訪問

日時 2014年1月2日 10時～11時

当寮で2013.10.20に短大卒のOGを対象に「ヨード欠乏と栄養のバランスある食生活」の研修会を実施。そのお礼と今後の研修会の抱負を短大在校生に話し、当NPOとさくら寮との相互理解を図る。

- ・短大在校生 20名
- ・当NPOの活動の紹介（熱田理事長）
- ・栄養のバランスが取れた食生活の勧め（熱田典子講師）
- ・現地事務局長の応援メッセージ（Krishna Khatiwada）
- ・プレゼント交換
- ・記念撮影

3. ネパール政府保健省「昆布ミネラルカプセル」使用許可の交渉

目的；これまでヨード欠乏症の予防のために、ネパール政府推薦のヨード添加塩の普及運動を背景に、2002年から、補完的ヨード補給活動として、「昆布ミネラルカプセル」（フジッコ製品）を使用してきたが、2011年5月の象皮病注射死亡事件で、カプセルが輸入化学薬品の使用禁止の濡れ衣を着せられ、カプセル使用禁止となった。その後、ネパール政府への現地折衝をお願いしたがラチがあかず、「薬品でない」ことの証しを今回の直接交渉で立てることにした。

実施日：2014年1月3日

・ Dr. Padam B. Chand

Government of Nepal

Ministry of Health and Population

Policy, Planning and International Cooperation Division

Chief

現在、ネパール政府はヨード欠乏根絶のため、ヨード添加塩の使用を勧め

ている。その普及率は 80%で成功しつつあるとみている。この昆布カプセル使用が、ヨード添加塩の普及活動と背反しなければ、限られた地区、対象に於いて、許可の方向で検討したい。ただし化学薬品でないことの判断を専門官に仰いで欲しい。

・ Senior Pharmacist

Bijaya Laxmi Shrestha

Department of Drug Administration (DDA).

昆布カプセルが化学薬品でないことは了解できたので、政府様式のフォームで「申請書」として提出して欲しい。添付資料も完備が必要。

感想；申請書裁可の感触をつかみ、「成功」と思っている。これは現地提携先 PHIDReC の事前のネゴと当日の大勢のスタッフの同席が「成功」につながっていると思う。

現在申請書を提携先とコラボで作成中

4. ネパールヨード欠乏症プロジェクト 2013

妊婦対象の継続プロジェクトで下記の要領で実施した。

期間：2013年9月～2014年3月

場所：Chautara Hospital (Sindhupalchowk District)

対象：妊婦 100名

内容

- ① ヨード欠乏検査 (UIE-test)
- ② ヨード欠乏症と栄養に関する母親教育

レポート 別紙